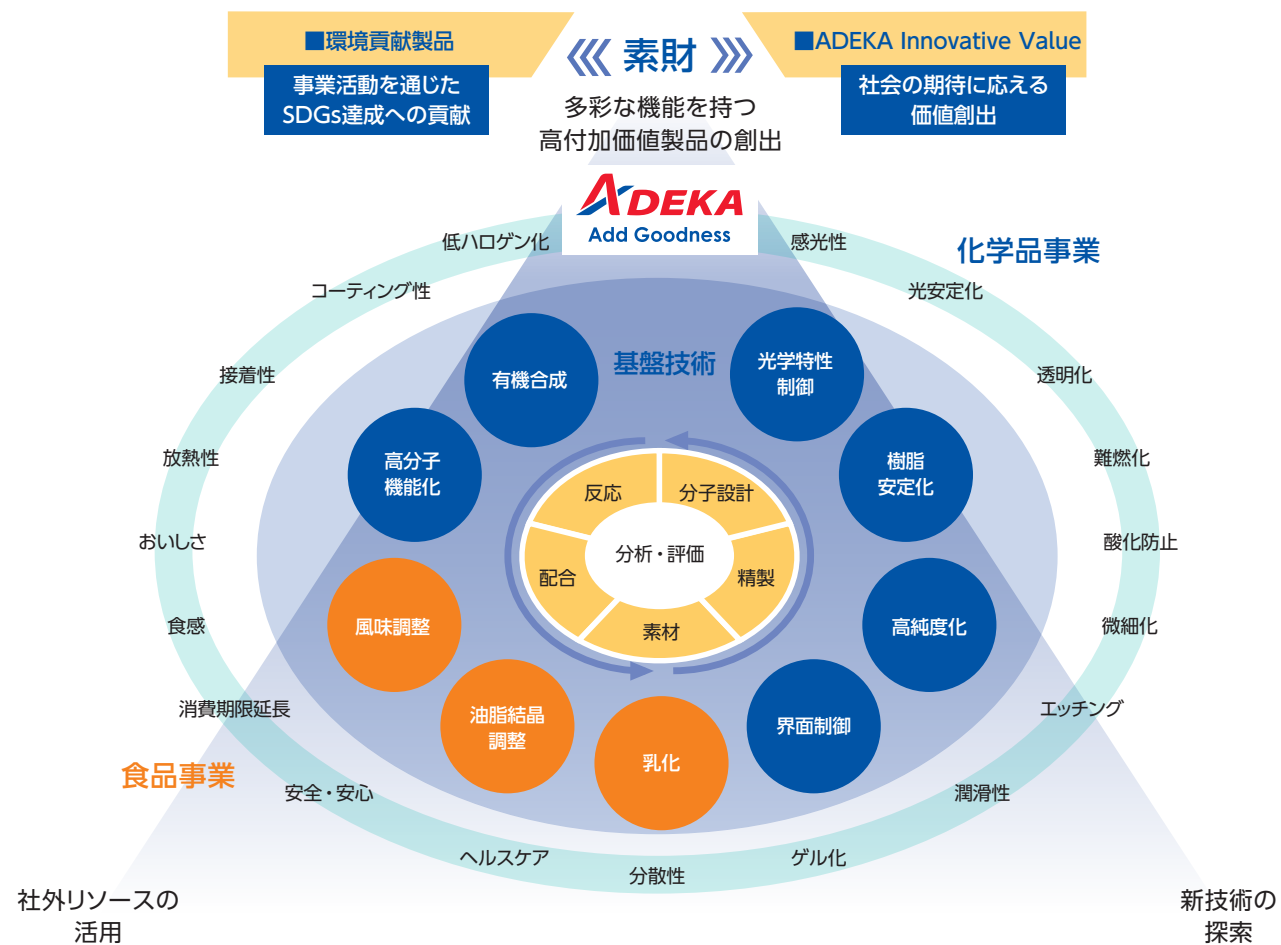


PICK UP 研究開発

研究開発ビジョン

ADEKAの研究開発部門では、2030年のありたい姿として、「イノベティブな素材とソリューションを開発し、世界に提供し続けることで持続可能な社会と人々の豊かな暮らしに貢献する」ことを掲げています。当社が100年以上の歴史のなかで築き上げてきた基盤技術を融合し、また、当社に不足している技術は社外リソースを積極的に取り入れて、世界中の人々に快適・便利で豊かな暮らしを提供するAIV(ADEKA Innovative Value)製品や、地球環境の保護に貢献する環境貢献製品を数多く創出していくことで、研究開発の将来ビジョン「人類の未来をテクノロジーの力で拓く」の実現を目指します。



芳仲 篤也
取締役兼執行役員 研究開発本部長

持続可能な社会と人々の豊かな暮らしに貢献

素材メーカーである当社は、BtoBのビジネスモデルを取っている製品が多く、自分たちが携わった研究開発の成果が社会に貢献できているのかを直接感じることはできませんでした。今回、当社のCSR優先課題として「環境貢献製品の提供」や「社会の期待に応える価値創出」が取り上げられ、そのKPI（評価指標）として「環境貢献製品の売上高」や「AIV認定製品数」が定められました。これにより我々の研究開発活動が、持続可能な社会と人々の豊かな暮らしに貢献している状況が見える化され、研究員一人ひとりのモチベーションアップに繋がっています。当社の製品や技術が、2030年SDGs達成の一端を担うことができれば、これに勝る喜びはありません。

研究開発方針

研究開発ビジョン実現のために、①研究テーマ選定や基本姿勢、②既存事業拡大、③新規事業創出に関する3つの方針を定めています。

① 持続可能な社会と人々の豊かな暮らしに貢献する研究開発を心がける。

研究テーマの選定においては、快適で豊かな暮らしの実現(AIV製品)や、地球環境の保全(環境貢献製品)など、幅広く社会に貢献できる製品開発を志向します。また、研究開発の段階から、人と地球にやさしい製品設計(使用原料や生産プロセス)とサプライチェーン構築を意識して取り組みます。そのために、日頃から購買物流や生産技術など社内の関連各部署と連携して研究開発を進めています。



生産プロセスを開発するための中実験設備

② 戦略製品を中心とした市場開発・新製品開発に注力し、さらなる事業拡大へ繋げる。

既存事業のさらなる拡大に向けて、市場環境の変化やユーザーニーズを鋭敏に捉えて社内でも共有化することで、タイムリーな製品開発を推進します。そのためには、社内連携、グループ連携によるマーケティング力の強化が欠かせません。グローバルに広がる当社グループの各拠点に配置した開発室は、現地の動向をいち早くキャッチするための前線基地としての役割を担っています。海外拠点や本社営業部と連携しながら、マーケティングに裏打ちされた確実な開発をスピーディーに推進します。

また、世界で必要とされる素材とソリューションを開発し提供していくためには、ユーザーと同じレベルの最先端の評価技術や分析技術を身に付けていく必要があります。大型評価設備や、分析装置の導入に加え、実験環境整備(例：クリーンルーム、温度／湿度管理、光反応する材料開発に至っては照明の工夫等)についても積極的に行っています。



ADCN イノベーションセンター (中国)



ADKK R&Dセンター (韓国)



AFTW 研発部 (台湾)

③ 「エネルギー」「環境」「次世代ICT」「ライフサイエンス」などフロンティア領域での新規事業創出を推進する。

組織の壁を越えた技術の融合により、ADEKAグループの強みを活かした新規事業創出を加速します。フロンティア領域での研究開発では、ゴールの姿をイメージして世の中のニーズと時間軸を意識した開発ロードマップを描き、それを関係者全員で共有化することで事業化に向けて一丸となって邁進します。

また、国内外の大学・研究機関・企業との交流を積極的に進め、オープンイノベーションにより新規事業創出のスピードアップを図ります。一例として、現在、国立大学法人 九州工業大学に新規高分子材料の共同研究部門を設置し、半導体フォトレジスト素材や自動車・電子部品向け新規接着剤の開発などに取り組んでいます。



九州工業大学の共同研究部門「分子工学研究所」